２０２２年３月６日（大斎節第１主日、C年）牧師メッセージ

「あなたのため」

（ルカによる福音書 4:1-13）

司祭ヨセフ太田信三

霊は主イエスを荒れ野に導きました。主イエスは荒れ野で独り神と向かい合いますが、それは同時に悪魔と向き合うことでした。主イエスが悪魔から受けた誘惑は、わたしたちの日常における悪魔からの語りかけです。荒れ野はどこか遠いところなのではありません。わたしたちの日常にあるのです。食べ物を好きなだけ得られる力、世界を自由にできる力、誰よりも財力と権力を得ること…。誰もが大なり小なりそのことに心奪われていることに思い当たるはずです。悪魔の誘惑は、わたしたちの日常の隅々に及んでいるのです。

悪魔は主イエスの弱みに付け込み、おだて、利益を餌にして、主イエスを神から引き離そうとします。そして、自分を拝もうとさせます。悪魔は決して力づくでそれをしようとはしません。あたかも「神の意思にも叶う」「正しい」と思わせて、納得させて主イエスを自分のところへ引きずり込もうとします。悪魔は相手の弱みをよく知っています。悪魔は、「あなたのために」という一貫した姿勢で誘惑してきます。「あなたが神の子ならそれができる」「あなたが願えば天使

があなたを支える」「あなたにすべてを与えよう」…すべて、「あなた」と呼びかけます。それは、人間が「わたし」のことだけを考えてしまうことを、悪魔は知り尽くしているからです。「あなた、あなた、あなた」とつぶやき続ける悪魔の声に従ってしまうのは、「わたしのことだけ」を考えてしまう人間の弱さゆえです。

しかし、悪魔の「あなたのため」が本当に「あなたのため」になることかというとまったく違います。実際、わたしたちの世界は今、悪魔による「あなたのため」という誘惑に負け、戦争までも起こしてしまう現実を目の当たりにしています。食料、権力、あらゆる力を「わたしのためだけ」に独占しあってしまうからこそ、戦争も、貧困も、抑圧され、暴力のもとに生きる命もなくならないのです。今の世界は、まさに悪魔の思うつぼです。

まことの導き主なる主イエスは、荒れ野においてこの誘惑に打ち勝ち、わたしたちが信じ、聞くべき言葉を示してくださっています。大斎節第一主日、主イエスが荒れ野において、神の言葉と悪魔の言葉に向き合われたように、「わたしたちは日々、神の言葉、悪魔の言葉、どちらに従っているだろうか」と、自らを省みたいと思います。